

神奈川地方協力本部創立60周年を迎える年に 第30代本部長松田辰雄 1等海佐着任

神奈川地方協力本部は、8月4日（火）、横浜市中区に所在する本部庁舎において、新本部長（1等海佐 松田 辰雄）の着任行事をとりおこなった。

松田1佐の前職は、広島県呉市所在の第3潜水隊司令であり、着任行事では、立会人（東部方面総監部人事部長・1等陸佐 楠見 晋一）からの紹介を受け、着任に際して、次のとおり訓示した。

指導方針は「結果を出せ」。結果を出すためには公正に行われる相応の努力が必要であり、その先にある「結果」を追求してもらいたい。

勤務信条は「過去と他人は変えられない」。自分の感情、思考、行動について、自分で責任を担い、特に悩みや問題に関して、他人や環境のせいにはしない。また、人間関係の問題を解決するに当たって、相手を変えようとせず、むしろ自分の感情、思考、行動を変える道を選ぶという意味である。

日々の勤務や暮らしの中で、思うようにならない事も多々あるが、その時に、相手や現実を恨むことなく、自らを変えて行くことという気持ちをもって精進してもらいたい。

最後に、皆さんのこの一瞬一瞬が限られた人生の一葉である事を良く認識し、悔いのないよう、楽しく、共に仕事をしていきたいと思つた。

神奈川地方協力本部は、「今年度、創立60周年という節目を迎える。新たな本部長を核心に、更なる飛躍を遂げたい」としている。



立会人から紹介を受ける本部長



隊員の前で訓示を述べる本部長

未知との遭遇 潜水艦研修支援

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 倉橋 准陸尉）は、8月21日（金）、川崎愛児園の中・高校生及び職員計9名が参加した海上自衛隊横須賀基地第2潜水隊群の部隊研修を支援した。

マイクロバスで移動した参加者は、米海軍横須賀基地内のゲートを通り、日本ではない雰囲気と潜水艦を目前に気持ちは昂ぶっていた様子であった。潜水艦が姿を現すと、目を輝かせ歓喜の声が車中に響いた。潜水隊群司令部の会議室で始めに制服姿の幹部自衛官から「ようこそ潜水艦へ」と明るい笑顔で挨拶され、緊張していた雰囲気も一気に和らいだ。また、潜水艦の概要、任務等の熱い説明を受けている間、生徒からの眼差しは真剣そのものであった。その後、潜水艦の入口の長い梯子を注意しながら一人一人がゆっくりと降りていき、発令所や居住区、魚雷室、機関室などを研修、艦内の未知との遭遇に目を丸くして驚いている様子であった。参加者は「初めての体験で緊張した」「狭い空間で隊員の皆さんは大変そう」「窓がないのでびびりました」等の意見が聞かれた。



熱心に説明を受ける参加者

神奈川地本広報センター入場者1万人達成！

神奈川地方協力本部（本部長 松田 辰雄 1等海佐）は、8月31日（月）、同地本の広報センター入場者数が、オープン以来1万人に達し、記念イベントを行った。

同広報センターは、平成20年3月1日、現在の庁舎への移転とともに、同庁舎1階に開設した。メインテーマは「国民・県民とともにある自衛隊」とし、「守りの情報発信基地」をキャッチフレーズに、広く国民・県民の皆様が防衛省・自衛隊への理解促進のため、陸海空自衛隊の活動パネルを主体として、募集関連情報や新入隊員の声、陸海空自衛隊・防大・高等工科大学の制服や階級章、それに各種模型や各種イベント案内等を展示・紹介してきた。

ホームページ等による同広報センターのPRが功を奏し、順調に入場者数を増やしてきたところ、安藤さんが1万人目の入場者となり、部員の盛大な拍手の中、広報班長から記念品を贈呈した。

安藤さんは、少々戸惑いながらも、「広報センターにはたびたび訪れていましたが、一万入目になるなんて驚いています」「センターにおいてあるパンフレット等を知人など周りの人に紹介しています。いつも楽しみにしています」と語った。

神奈川地方協力本部は、「今後とも、県民とともにある地方協力本部として、広報センターの更なる充実により、イメージキャラクター「はまちゃん」とともに、募集対象者の獲得と防衛省・自衛隊への更なる理解を図っていく」としている。



本部長（右から2番目）とはまちゃんと一緒に記念撮影をする安藤さん（中央）